病院図書館　2000；20(1･2)：45-47

◇◇　近畿病院図書室協議会　◇◇

第26回　総　会　報　告

平成12年３月30日、国立京都病院において平成11年度の近畿病院図書室協議会第26回総会を開催した。

議案７題はそれぞれ満場一致で可決され、次年度の会長と事務局長には、粉川皓仲国立京都病院院長現会長と小田中徹也現事務局長が再選された。

また、講師には荻野篤彦先生（国立京都病院皮膚科医長）を招き、「病草紙にみられる疾患と今日的意味」と題して総会記念特別講演を開いた。

議　長：星ヶ丘厚生年金病院　　首藤　佳子
副議長：日本バプテスト病院　　武田真由美
書　記：姫路赤十字病院　　安東　正子

総会員数：122機関
出　　席：28会員
委 任 状：55会員
合　　計：83会員（会員の2/3以上の数を満たし総会成立）

議 案 日 程

議案Ⅰ．平成11年度活動報告

議案Ⅱ．平成11年度会計報告・監査報告

議案Ⅲ．平成12年度活動方針

議案Ⅳ．平成12年度事業計画

議案Ⅴ．平成12年度予算

議案Ⅵ．役員改選

議案Ⅶ．次年度会長・事務局長承認

議案Ⅰ　平成11年度活動報告

はじめに

1999年は近畿病院図書室協議会の設立25周年を迎えた年であり、今年度から会長も牧野尚彦前会長（兵庫県立尼崎病院長）から粉川皓仲新会長（国立京都病院長）に交替して、これまでの実績を踏まえつつ、新たな活動を展開する端緒の年であった。また、病院図書室における司書の位置づけや著作権の問題など図書館としての存在基盤を考えさせられる年でもあった。

今年度は25周年の特別な記念行事は行わなかったが、当協議会案内の小冊子発行、会誌補冊号の発行、総合目録のデータベース化などを継続事業の他に事業化することにしていた。その中で、目録のデータベース化については、"Lettura"としてシステム開発作業と会員の利

用が順調に進み、夏には横浜での医学図書館員情報サービス研究大会でも紹介した。また、次年度にずれこんだが、当協議会紹介の小冊子や啓蒙的な単行書などの新たな出版活動も予定している。

次に、継続事業について概観すると、文献相互貸借活動では会員がお互いの最新の雑誌所蔵状況を把握すべく、例年どおり11月に『現行雑誌所在目録1999年版』を発行し、会員へ配布した。

教育研修活動では今年度も定例4回の研修会と見学会を1回開催した。6月の大阪市での第90回研修会では新人向けのプログラム。大津市での二日間にわたる夏の第91回研修会では、「司書力をアップしよう！」とのテーマのもと、Evidence-based Medicine (EBM) やレファレンス活動を話題にした。また、今年1月の大阪市立大学医学情報センターを会場にした第92回研修会では、「シソーラスとMeSH」をテーマとして、コンピュータ検索においても欠かせないシソーラスの概念を扱った。さらに、その前に開催された11月の見学会は今年度も近畿地区医学図書館協議会のシンポジウム参加に協力する形で実行し、大阪市立大学医学情報センターを訪れた。年度末3月の総会当日の第93回研修会は、例年どおり会員の事例研究報告会を予定している。

出版広報活動では、新編集体制のもと会誌『病院図書室』(季刊) 19巻1号では小特集「さまざまな病院図書室」で、個性的な取り組みの図書室を紹介した。また、2号では中井久夫神戸大学医学部名誉教授の貴重な総会記念講演の記事化や病院図書室における現在の幾つかの課題を扱った。同3号では「病院機能評価と病院図書室」を特集し、病院における図書館の意味や位置づけをテーマにした。さらに、4号では医学・医療と情報との深い関連性で話題のEBMの特集を予定している。また、次の巻から第20巻になることでもあり、表紙のデザインと印刷所を変更するとともに、誌名を『病院図書館』とすることにした。

なお、1997年に開設した当協議会のホームページ (http://www.hosplib.org/) の内容更新は必ずしも充分とはいえず、作業協力者の確保など対策が望まれる。

対外交流では、今年度も病院図書室研究会との共同事業が大きい。そのうち「インターネット・プロジェクト」として共同で運営するホームページ「フォリオ "folio"」(http://www.hosplib.org/folio/) は2000年1月現在アクセス件数も27,000件を越え、公開掲示板 (folio talk) には医学図書館や情報関連分野からの投稿などもあり、大きな成果があったものと評価できる。

一方、病院図書館員の専門性を強化、普及させる目的で取り組んできた「病院図書館員認定資格制度の調査研究」では今年度からは「認定制度」実施の準備段階に入った。両会8名からなる認定準備委員会を秋に発足させ作業を進め、実施方法やカリキュラム内容の検討作業を進めた。現在、両会間でその具体的な実施方法について検討中であるが、当認定事業は来年度も大きな課題となろう。

Ⅰ－1　各事業部報告

Ⅰ－1－1　研修部

[第90回研修会]

日時：1999年6月17日（木）10：30～16：30
場所：淀川キリスト教病院オリーブ棟
会費：会員1,000円　非会員1,500円
プログラム

1．図書館員の仕事
　－レファレンス・サービスを中心に－
　講師　首藤　佳子（星ヶ丘厚生年金病院）
2．近畿病院図書室協議会の活動について
　講師　小田中徹也（国立京都病院）
3．図書室業務に必要な資料について
　講師　中村　雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）
4．フリートーキング　質疑応答

参加者：32名（うち非会員３名）

[第91回研修会]

日時：1999年８月27日（金）・28日（土）
場所：琵琶湖リゾートクラブ会議室
会費：会員　15,000円　非会員　17,000円
プログラム
“司書力”をアップしよう！
[第１日目]
1．Evidence-Based Medicine (EBM)
ー診療行為の根拠と情報収集
講師　森本　剛（国立京都病院）
2．EBMデータベース等
デモンストレーション
講師　橋本　剛（ユサコ㈱電子メディアグループ）
3．コクラン共同計画について
講師　柳　元和（住友金属㈱関西製造所特殊管事業所診療所）
[第２日目]
1．[役にたつインターネット]
①国立国会図書館作成の雑誌記事索引のデモ
講師　中村　雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）
②電子メールの使い方
～基礎から実践まで～
講師　小田中徹也（国立京都病院）
2．[ワークショップ]
テーマ
①看護職へのサービスについて
②施設内のインフォメーションセンターとしての役割について
③レファレンスツールと「学ぶ」方法・知識の修得
参加者：延24名（うち非会員２名）

[施設見学会]

近畿地区医学図書館協議会第５回シンポジウム
日時：1999年11月25日（木）13：00～17：00
場所：大阪市立大学医学情報センターホール
会費：無料
テーマ：医学図書館の近未来
参加者：20名

[第92回研修会]

日時：2000年１月11日（火）10：00～16：30
場所：大阪市立大学医学情報センター情報訓練室
会費：会員　1,000円　非会員　1,500円
プログラム
1．円滑で効率のよい相互貸借をめざして
講師　須井麻由美（三菱京都病院）
2．医中誌データベース検索における医学用語シソーラスの活用法
講師　浜田　雅美（医学中央雑誌刊行会編成課）
3．MeSHと医学図書館員
講師　青木　任（順天堂大学図書館）
4．文献検索実習
指導　小田中徹也（国立京都病院）
参加者：37名（うち非会員４名）

[第93回研修会]

日時：2000年３月30日（木）10：00～12：00
場所：国立京都病院
会費：500円
プログラム［事例・研究報告会］
1．市立豊中病院における患者サービスの現状
高井　真紀子（市立豊中病院）
2．病院図書室の司書となったこの１年と今後について－新病院移転に向けて－
安東　正子（姫路赤十字病院）
3．キーワードconsumer healthを検索して見えてくるもの
千住　とも子（日本生命済生会附属日生病院）
4．病院機能評価受審への取り組み－図書館担当者として－

森川　治美（松阪中央総合病院）
：当日の都合により資料配布のみ
5．近畿病院図書室協議会研修会プログラムのまとめ
研修部
参加者：29名

今年度は4回の研修会、施設見学会を1回行った。基本テーマとしては、図書館員としての基礎力のアップをめざすこととし、図書館業務の基本となる用語の理解を深めることに主眼をおいた研修会を企画した。

今年度第1回目となる第90回研修会は前年度と同様、新任担当者向けの内容でおこなった。特に「図書館員の仕事」として、レファレンスサービスの実践を中心にしたプログラムとなった。

第91回研修会は昨年同様、宿泊セミナー形式で行った。一日目は、新しい用語として、"Evidence Based Medicin (EBM)" を理解するため、データベースのデモンストレーションを含めた講演を企画した。二日目はレファレンスサービスの展開を目指して、ワークショップを行った。参加者の実務年数は様々で、それぞれの立場からの発言があり、参加者各自がこれから何ができるか、何をして行けば良いか自ら問い直す機会となった。ただ、2日間通しての参加は6割程度になってしまい、特に経験年数の浅い担当者の二日目のワークショップへの参加が少なかったのが残念である。

第92回研修会はMeSHとシソーラスという、文献検索の基礎用語をもう一度学び直すための目的とした研修内容になった。会場では参加者各自でコンピュータを操作でき、インターネットへの接続が可能であったので、インターネットでの文献検索や、その他の図書館情報の入手についての実習を行うことができた。

施設見学会は、第5回近畿地区医学図書館協議会シンポジウムをあてた。近未来の医学図書館をテーマに4題の講演があり、今後の医学図書館の進む道について考える機会になった。

今年度は東海地区での勉強会は開催しなかった。

全体を通して見ると、今年度の事例・研究報告会を除く、研修会、見学会、いずれも多数の参加を得ることができた。しかし、参加者の勤務状況は年々厳しくなっているようで、2回以上参加できた会員は少数である。

また、経験年数にも開きができているため、企画次第で参加、不参加を決める場合があるのではと考える。参加できる回数に限りがある会員が増えて行くようであれば、対象を絞った研修内容にするか、または一度の研修会でプログラムの内容をいろいろ工夫するなど、研修部としての対応が今以上必要になってくると思われる。

特に年度初めの研修会は新人向けとして企画してきたが、もう少し、細かな対応を望む声もあり、少数の参加者で実務研修を行うなど新たな対応策を検討する必要があるのではないかと考える。

今年度は研修部員として、大阪府立母子保健総合医療センターの中村雅子氏、済生会兵庫県病院病院の田中文子氏、阪和記念病院の亀井真由美氏、南大阪病院の岸田郁葉氏の協力を得た。

なかなか参加者全員に満足してもらえる研修会を企画することは難しいが、多方面からの協力を得て今年度の研修会を開催することができた。研修部としての企画力不足を反省するとともに、感謝を表したい。

次年度はまた、新たな研修部体制で臨む事になるが、地域に根ざした研修活動や、経験年数を越えた幅広い支持をうけることの出来るような研修会など、いろいろな方法を検討し、よりよい研修活動を行い、協議会全体としての資質向上を目指してゆきたい。

Ⅰ－1－2　会誌編集部

1．活動報告

今年度は会誌19巻１号～３号を発行した。総ページ160ページ。

発行経費は1,486,080円で予算1,800,000円に対して313,920円の残となった。

配布部数は、218部（会員124、講読会員74、交換７、寄贈13）である。

主な内容、発行日、印刷部数、印刷費は下記のとおりである。

1999年19巻

○１号（発行H11.5.27.38頁、
印刷部数300部、276,150円）
特集：さまざまな病院図書室／レファレンスの基本と考え方／他

○２号（発行H11.8.11.78頁、
印刷部数300部、528,150円）
特集：精神科領域における書籍と出版こぼれ話／総会特集／他

○３号（発行H11.11.9.60頁、
印刷部数300部、414,750円）
特集：病院機能評価と病院図書室／電子メールを始める人のために／他

○４号（発行H12.3月末発行予定、
印刷部数300部）
EBM診療行為の根拠と情報／日本におけるエビデンスに基づく医療の推進／
14巻～18巻の目次

また、広告収入は下記のとおりである。

サンメディア（裏表紙）	
19(3)'99～19(4)'99	40,000円
ナカバヤシ（B5）	
19(2)'99～19(4)'99	30,000円
ベルブック（B5）	
19(1)'99～19(4)'99	80,000円
医学中央雑誌刊行会（B5）	
19(1)'99～19(4)'99	40,000円
厚生社（B6）	
19(2)'99～19(4)'99	15,000円
ユサコ（単発）	
19(3)'99	12,000円
ナウカ（単発）	
19(3)'99～19(4)'99	24,000円
合　計	241,000円

2．総括

今年度を総括すると次のようになる。

1）編集方針に基づき企画発行することができた。

2）内容の充実を最優先し過ぎたため、発行の遅れを改善することができなかった。

今後の対策として、企画の早期立案、原稿締め切り日の厳守の徹底などが求められる。

3）部員の増員なども含めた編集体制の確立などが求められる。

4）「医学用語あれこれ」を別冊として編纂する予定であったが、著者の都合にて次年度発行となった。

3．編集方針

'99編集方針は、これまでの蓄積の上にたち、病院図書室担当者の専門性を更に高めるために、誌面上から貢献できる記事作りを考えた。

会員による業務の事例報告はもとより、病院機能評価における病院図書室の対応策やEBM、コクラン共同計画等、担当者にとって必要な幅広い知識の提供を目指した。また、ニューメディアの紹介から実用にいたるまで図書室担当者の参考となる記事を取り上げ、事例を交えて紹介することに努めた。

なお、臨床に役立つ雑誌、役立つホームページの紹介および相互貸借の知識充実のため、シリーズ掲載を続行している。2000年は会誌20巻にあたるので、レイアウト等を一新し、より充実した誌面作りをめざしたい。これに伴い、印刷所の変更する。なお、会誌名を「病院図書室」から「病院図書館」へ改題する。

編集方針としては、新装丁にて、読みやすく、親しみがあり、アクティブな誌面づくりを心がける。内容としては、編集方針に基づき、具体的に企画・編集し、病院図書室担当者の役割と

専門性を追求し、わかりやすい記事作りを目指す。また、病院図書室担当者に限らず、多くの関連専門分野の方々にも執筆を依頼することとする。誌面内容に、会則（各巻２号）、投稿規定（各巻毎号）の掲載する。

４．発行の遅れの解消について

昨年来の発行の遅れは、未だ解消されておらず、現在予定より２号の遅れがある。なお、発行日は、３ヶ月の遅れがある。今後の対応として、企画の早期立案、原稿依頼に余裕を持ち、締切厳守を促進することに努めていく。

５．20巻以降の発行について

20巻2000年の発行は、編集方針に基づき、誌面の充実に努めていきたい。具体的案として、病院図書室における利用者教育、総会・研修会特集等を企画予定している。その他特集記事や各論文で編集方針を深め、ニュース記事や会員間の情報交換のページを充実するとともに、関連記事（図書館、医療関係）の紹介の充実を計る。

６．会誌「病院図書室」別冊発行について

会誌上にて、1991年６月会報18巻２号通巻97号より連載されてきた「医学用語あれこれ」を別冊として編纂する。ページ数35ページ程度とし、編集部予算内にて行うこととする。発行時期は2000年５月を予定している。

Ｉ－１－３　統計調査部

「現行雑誌所在目録 1999年版」の発行

前年度の「現行雑誌所在目録 1998年版」の発行に引き続き、「現行雑誌所在目録 1999年版」を編集発行した。

この目録には会員機関が所蔵する1999年の国内雑誌829誌、および国内雑誌1,259誌を収録した。ただし1998年版と同じく、図書室の相互貸借業務を行っていない機関の所蔵データおよび相互貸借受付に応じられない雑誌のデータは除外した。この目録の発行経費は会員の年会費から捻出し、[非売品]として会員に配布した。

Ｉ－２－１　幹事会

昨年同様、４回の幹事会を開き、会の運営にあたった。

第１回（1999/ 4/22)：国立京都病院
第２回（1999/ 7/08)：三菱京都病院
第３回（1999/10/21)：国立京都病院
臨　時（2000/ 1/28)：淀川キリスト教病院

Ｉ－２－２　役員会

平成12年２月17日午後、第４回幹事会を兼ね国立京都病院で会長司会のもと開催した。先ず、今年度の協議会活動、事業活動、会計報告が了承され、続いて平成12年度の活動方針と事業計画について審議した。

この中で、来年度の秋に設立25周年記念行事を実行することが企画された。また、事業活動を遂行する上で役員の負担を軽減することや、新規事業の着手が容易になることを図るため、1994年以来据え置きだった年会費を１万円値上げして、３万円にすることを総会に諮ることにした。また、病院図書室にとって著作権の問題は大きな課題であるので、ワーキンググループなどを設置し、調査検討することにした。

次に、来年度の会長と事務局長については、粉川皓仲現会長（国立京都病院院長）と小田中徹也現事務局長（国立京都病院図書室司書）が再選され、総会に諮ることになった。

Ｉ－２－３　会員の状況

会員数：122機関（平成12年２月現在）
（近畿外　40機関、病院外　７機関）
異動：入会；４機関
高知市立病院（高知）
広島市立阿佐市民病院（広島）
岡崎市民病院（愛知）
徳島健生病院（徳島）
退会；なし

Ⅰ－2－4　対外交流

日本医学図書館協会の第70回総会（99/5/20-21 福岡）へは、事務局長がオブザーバーとして出席し、シンポジウムではフロアからの発言を行った。また、第6回医学図書館員基礎研修会（99/12/8-10 愛知医科大学）には会員5名が参加した。さらに、8月には東海地区医学図書館協議会より総合目録1997年版の書誌データ利用について協力依頼があり、応じることにした。

近畿地区医学図書館協議会の例会では、第74回例会（99/4/28 和歌山県立医科大学）へ事務局長と会員の伊東りつ子が出席した。第75回例会（99/11/5 天理よろづ相談所病院）へは事務局長が出席した。また、第9回九州地区医学図書館員セミナーにおいて、小田中徹也が病図協の活動を紹介した。さらに、近畿地区第5回シンポジウム（既述）ではその実行委員として研修担当幹事の林伴子が従来どおり加わった。

今年度の日本病院会第22回全国図書研究会（99/10/14-15 東京）の後援名義の使用についても例年どおり協力し、会員の山室眞知子と中村雅子はシンポジストとして講演した。

対外交流のうち、特に病院図書室研究会との共同事業については「はじめに」で、また次項の「共同事業」でも述べた。この他、各地区ネットワークとの交流では主にそれぞれの会誌や機関紙の交換を通じ、交流している。また、昨年来インターネットを介しての交流も、フォリオを中心に活発になってきたのも特徴である。

Ⅰ－2－5　共同事業

病院図書室研究会との共同事業において、今年度も2回の運営会議を開いた。その経過概要は、既に会誌19巻2号と4号で報告を行った。

第5回運営会議(1999/5/8 聖路加国際病院)：病図研からは5名、病図協からは3名が出席し、二つの課題について報告と協議を行った。インターネット・プロジェクトによる共同運営ホームページついては、共同事業の成功例として今後も継続することが確認された。また、病院図書館員認定資格制度検討については、検討班からの最終報告が提出され、教育カリキュラム案を添えて、認定制度実現の方向でいくのが望ましいことが示され、両会に持ちかえることが確認された。

第6回運営会議(1999/11/20 国立京都病院)：病図研からは7名、病図協からは8名が出席し、同テーマについて協議検討した。共同運営ホームページ「フォリオ」については役割と意義が評価されたものの、公開掲示板への投稿についてはネチケット上の注意を要することが確認された。また、病院図書館員認定資格制度については第5回会議での答申後の経過が報告された。その中で10月の東京と京都でのヒヤリング会の概要、認定実行準備委員会の設置経過などが報告・了承された。また、通信教育とスクーリングを主体とする実施内容の詳細について検討されたが、実行委員会の位置付けや財政的課題については保留となった。なお、今年度の同運営会議の世話人は当協議会の小田中徹也事務局長が当たったが、来年度は慣例にしたがい長谷川湧子病図研会長があたる予定である。

Ⅰ－2－6　会員業績

会誌『病院図書室』以外に発表した業績を掲載します。

[学会発表]

(1) 当院疾病統計をもとにしての蔵書構成の再検討
　山室真知子
　第16回全国医学情報サービス研究大会（横浜）　1998. 6. 20-21

(2) 医学専門情報公開に対する社会的関心と患者および市民の利用状況
　山室真知子
　第6回医学図書館研究会・継続教育コース（千葉）　1999. 9. 29-30

(3) シンポジウム「図書室業務のスリム化とパワーアップ」

シンポジスト　山室真知子
日本病院会　全国図書研究会（東京）
1999.10.15

[誌上発表]

(1) 山室真知子
病院図書室におけるプライバシー保護
[小特集] 利用者のプライバシー保護を検証する
図書館雑誌　1999；93：909.

(2) 山室真知子
これからの病院図書室⑭
病院図書室における患者サービス
日本病院会雑誌　1999；46：1979-1985.

(3) 山室真知子
医学情報の患者へのバリアフリー
[特集] バリアフリーとユニバーサルデザイン
情報の科学と技術　2000；50(3)：137-142.

議案Ⅱ　平成11年度会計報告・監査報告

（次頁）

議案Ⅲ　平成12年度活動方針

当協議会は設立以来25年を経過し、病院間における図書館協力活動をさまざまな事業活動の形で実践してきた。その過程では1995年1月の阪神・淡路大震災で19機関の会員病院が大きな被災に見舞われる不幸もあったが、事業活動への評価は会員数の漸次増加でも明らかと思われる。

今日、インターネットに代表されるように高度情報化社会といわれるが、医学や医療分野の情報を扱う病院図書室の環境は決して充分ではなく、むしろ悪化の傾向にあるといってもいいだろう。そこで、先ずそこに働く図書館員の専門性を社会的に定着させていことは今後のためにも重要なことであると考える。また、病院図書室そのものの図書館としての役割を再考し、その意義を問う必要があると思われる。

当協議会では、来年度も従来からの継続事業である医学文献情報活動、教育研修活動、出版広報活動、年次統計調査を実施していきたい。また、共同事業はインターネットの活用を促すとともに、病院図書館員の専門性を認定の形で実現するためにも、継続していきたい。

さらに、情報を扱う図書館員にとって法律に裏付けされた権利である著作権は重要であるが、病院図書室が図書館として社会的に認知されるキーワードであるとも考える。したがって、来年度の大きな課題として取り組んでいきたい。

なお、来年度は四半世紀を経過した当協議会を記念し、今後さらに発展することを願って記念行事を実施したいと考える。企画については、これまでの活動を振り返るとともに、病院図書室の今後に新たな地平を切り開く契機となるような内容としたい。

これらの活動や事業を推進していくにあたり、これまで幹事をはじめとする役員や事業協力に携わった会員の労力的、経済的な負担も決して少なくなかった。その意味で、来年度からは事業の新規着手や継続が容易になるためにも、また、事業の協力にあたる会員の負担軽減のためにも、年会費2万円を3万円に改定することに会員の理解と協力を得たいと考える。

議案Ⅳ　平成12年度事業計画

1．医学文献情報活動
「現行医学雑誌所在目録」2000年版の発行
総合目録データベース（Lettura）の活用

議案Ⅱ　平成11年度近畿病院図書室協議会会計報告

(収入の部)　　単位＝円

費　　目	予算額	決算額	摘　　要
前年度繰越金	1,501,013	1,501,013	
会　　費	2,370,000	2,430,000	H11×119＝2,380,000 入会金×5＝　50,000
事業収入	634,000	824,000	
会誌購読会費	498,000	432,000	H11×70＝420,000 H10× 2＝ 12,000
研修会費	115,000	331,500	第90・91・92・93回研究会参加費
雑誌総合目録	21,000	57,000	@ 7000×3＝21,000 @12000×3＝36,000
そ　の　他	——	3,500	会誌，現行雑誌所在目録売上
広告掲載料	220,000	241,000	ベルブック（2年分） ナカバヤシ，厚生社，医中誌 ユサコ，サンメディア
そ　の　他	——	588	銀行利息
合　　計	4,725,013	4,996,601	

(支出の部)

単位＝円

費　　目	予算額	決算額	差引増△減	摘　　要
総会費	150,000	95,920	54,080	選挙・議案書費用 特別講師謝礼・交通費
事務費	100,000	31,866	68,134	会長交替挨拶状・印鑑・ゴム印・銀行手数料，他
通信費	120,000	41,490	78,510	事務局，各部会連絡，会員宛通信費
交通費	500,000	456,360	43,640	幹事会・各部会，他
事業費	3,000,000	2,676,875	323,125	
会誌発行費	1,800,000	1,486,080	313,920	会誌18(4)発送費， 19(1)・19(2)・19(3) 印刷費・発送費
研修会費	350,000	596,120	-246,120	第90・91・93・回研修会 見学会
現行雑誌所在目録	450,000	461,780	-11,780	印刷費・発送費
その他事業	400,000	132,895	267,105	年次統計調査依頼発送費・コピー代 レンタルサーバー代
資料費	150,000	166,173	-16,173	学術雑誌総合目録欧文編Bull Med Lib Assoc購読料 「情報と科学」購読料
予備費	500,000	0	500,000	
雑費	205,013	25,925	179,088	JMLA総会参加費，他
合計	4,725,013	3,494,609	1,230,404	

平成11年度　会計監査

単位＝円

収　　入	金　額	支　　出	金　額
前年度繰越金	1,501,013	総　会　費	95,920
		事　務　費	31,866
会　　費	2,430,000		
		通　信　費	41,490
事業収入	824,000	交　通　費	456,360
会誌購読会費	432,000	事　業　費	2,676,875
研　修　会　費	331,500	会誌発行費	1,486,080
雑誌総合目録	57,000	研　修　会　費	596,120
そ　の　他	3,500	現行雑誌所在目録	461,780
		その他の事業	132,895
広告掲載料	241,000		
		資　料　費	166,173
そ　の　他	588	雑　　費	25,925
		翌年度繰越金	1,501,992
合　　計	4,996,601	合　　計	4,996,601

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成12年３月29日

黒佐幸太郎

荒川　直子

2．教育研修活動
研修会・勉強会の開催
関連団体の研究研修会への案内と参加奨励

3．出版広報活動
会誌『病院図書室』の季刊発行
ホームページの継続と内容更新
協議会の事業活動紹介の小冊子発行

4．年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査

5．共同事業
病院図書室研究会とのインターネット・プロジェクトおよび病院図書館員認定制度の実施

6．設立25周年記念行事の実行

議案Ⅴ　平成12年度予算

（次頁）

議案Ⅵ　役員改選

平成12年度
幹事
松本　純子　（住友病院）
山崎　捷子　（淀川キリスト教病院）
山室　眞知子（京都南病院）
林　　伴子　（社会保険神戸中央病院）
森川　治美　（松阪中央総合病院）
村上　友子　（石切生喜病院）
黒佐　幸太郎（奈良社会保険病院）
会計監査
亀井　真由美（阪和記念会館）
高井　真紀子（市立豊中病院）

議案Ⅶ　次年度会長・事務局長承認

平成12年度
会　　長　　粉川　皓仲
（国立京都病院院長）
事務局長　小田中　徹也
（国立京都病院図書室司書）

議案Ⅴ．平成12年度予算

(収入の部)

費　　目	金　額
前年度繰越金	1,501,992
会　　費	3,700,000
平成12年度	
@30,000×122	
平成11年度未納	
@20,000×　2	
事業収入	825,000
会誌購読会費	420,000
平成12年度	
@6,000×68	
平成11年度未納	
@6,000×　2	
研修会費	55,000
定例研修会	
@1,000×30×1	
事例報告会	
@　500×35	
勉強会	
@　500×15	
25周年記念フォーラム	350,000
そ　の　他	
そ　の　他	
広告掲載料	220,000
合　　計	6,246,992

(支出の部)

単位＝円

費　　目	金　額	摘　　要
総会費	150,000	選挙費用，議案書費用，特別講師謝礼・交通費
事務費	100,000	封筒印刷，年賀状印刷，他
通信費	120,000	事務局･各部会連絡，会員通知，他
交通費	500,000	役員会，幹事会，各部会，JMLA近畿地区例会，共同事業，他
事業費	4,270,000	
会誌発行費	2,500,000	会誌19(4)，20(1-4)・25周年記念別冊印刷，送料，執筆料
研修会費	200,000	定例研修会1回・事例報告会・勉強会
25周年記念事業費	700,000	
現行雑誌所在目録	470,000	印刷費，発送費
その他事業	400,000	11年度年次統計報告，インターネット関連費，小冊子作成費
共同事業関連費	300,000	
資料費	150,000	雑誌購読料(2誌)，他
役員手当	300,000	
予備費	300,000	
雑費	56,992	慶弔費，接遇費
合　　計	6,246,992	